

委託事業実施内容報告書
平成27年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム（B）】

実施内容報告書

受託団体名：特定非営利活動法人 可児市国際交流協会

1. 事業名称

・地域多文化共生人材育成事業

2. 事業の目的

・在住外国人もかつて中南米の日系人から、ここ数年は東南アジア系の日系人、実習生、結婚等での来日など、その様子は変遷し、多様化してきている。この人たちが、日本で生活する上で必要とする日本語が学べるように、初級から中級までレベルに応じた日本語教室を展開する。日本語教室で学習したことが活用でき、また評価してもらえるような仕組みを作り、学習意欲の向上につなげる。その評価は(仮称)「認定証」によって表わされるようにする。認定基準を設けて検定し、その結果を共有することによって、本人の日本語学習達成の目標ができ、人材育成という観点からも、自発的な行動が取れるようにする。日本で生活するにあたって、何が大切かという意識を在住外国人も日本語指導者も意識しながら、学習を行えるようにする。

3. 事業内容の概要

・学習者には、どのくらい日本語が話せるのか、理解できているのか、自分の力が社会で通用するのか、チャレンジできるのかを(仮称)「認定証」によって、明示できる仕組みを構築するために、次のような取組を実施。

□取組 1: 多文化共生人材育成推進委員会の開催

(仮称)「認定証」を発行するための基準作り、「認定証」を実現するための方策等を審議する。

□取組 2: 初級者向け日本語教室の開催

生活に最低限必要な情報を伝える・聞く・読み取る日本語指導。

□取組 3: 中上級者向け日本語教室の開催

仕事や地域社会でのコミュニケーションが十分できるような日本語指導。

□取組 4: 演劇ワークショップで伝える防災の実施

安心安全の防災意識と対処を演劇手法を用いて具体的に展開。

□取組 5: 日本語見本市の開催

日本語指導の取組の成果発表を検証し、課題の共有化を図る。

各取組は、それぞれ(仮称)「認定証」基準作成を目指して、学習者が取得しやすい学習指導方法などを検討しながら、実施する。「認定証」は、地域で認知度を上げ、有効活用できる価値あるものとしなければならない。

4. 事業の実施体制について

・運営委員会には、行政、日本語教育専門家、研究者、演劇関係者、子育て支援者、さらには、これまで日本語教室が開催されなかった空白地域の関係者も参画し、地域日本語教育の連携体制推進に向け、検討する。

地域の連携が不可欠な災害時の体制や情報提供のための「伝える・伝わる日本語」を多文化演劇ユニット“MACHI”と一緒に実施する。多文化共生育児サークル“EarthBabies”との連携で、子育て中のママのための日本語教室、栄養士が中心となって活動する“ミールの会”によって、日本の四季折々の食文化を伝えるお料理教室を実施するなど、多様な日本語支援体制を作る。県内外の日本語教育のネットワークで情報共有し、地域の日本語支援体制として、連携連動していく「日本語見本市」を開催し、実践者による報告により、参加された専門家、研究者、関係者で取組の検証を行い、さらに今後の連携の体制整備につなげる。

5. 運営委員会の開催について

【運営委員】

1	米勢 治子	東海日本語ネットワーク
2	小島 祥美	愛知淑徳大学
3	松井 かおり	朝日大学
4	木村 美穂	岐阜県国際交流センター
5	加藤 エジソン	可児市人づくり課
6	寺澤 佳子	多文化共生育児サークル Earth Babies
7	山田 久子	多文化演劇ユニット MACHI
8	リバーモア ハニト	八百津町
9	各務 眞弓	可児市国際交流協会
10	近藤 利恵	可児市国際交流協会

【概要】

回	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成 27 年 6 月 15 日(木) 10:00~12:30	2.5 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	米勢 治子 小島 祥美 木村 美穂 加藤 エジソン 山田 久子 リバーモア ハニト 近藤 利恵	①運営委員紹介 ②今年度の取組 ③今後のスケジュール
2	平成 28 年 1 月 15 日(金) 10:00~13:15	3.25 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	米勢 治子 松井 かおり 木村 美穂 加藤 エジソン 山田 久子 リバーモア ハニト 各務 眞弓 近藤 利恵	①各取組の実施状況 ②日本語見本市について ③来年度について
3	平成 28 年 3 月 17 日(木) 10:00~13:15	3.25 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	米勢 治子 松井 かおり 木村 美穂 加藤 エジソン 山田 久子 リバーモア ハニト 各務 眞弓 近藤 利恵	①各取組の実施報告 ②日本語見本市を終えて ③今年度事業 成果と課題 ④来年度事業 改善に向けて

6. 取組についての報告

取組1:多文化共生人材育成推進委員会

(1) 体制整備に向けた取組の目標

- ・(仮称)「認定証」発行実現に向けた認定テストの方法・内容の検討会に地域の企業の代表者(可児ライオンズクラブ、加茂ロータリークラブ)に入ってもらうことで、本事業の取組を周知させることができる。また、この方々に周知されれば、日本語教育の体制整備の必要性を関係各所に発信してくれる、その力は大きい。

日本語教室の指導者やサポーターにも、本取組によって、日本語教育体制は、地域との連携が重要であることが理解され、日本語教室のあり方を考えるきっかけにつながる。

(2) 取組内容

- ・(仮称)「認定証」発行実現に向けた認定テストの内容・方法の検討
- ・「認定証」活用の有効性の検討・連携構築

(3) 対象者

- ・本事業事務局及び行政担当者

(4) 参加者の総数 4 人※延べ人数ではなく、参加した人数を記載

そのうちの日本語学習者数 0 人

【出身・国籍別内訳】

中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	インドネシア	タイ	ペルー	フィリピン	日本
		1							3

※その他の国籍と人数:

(5) 開催時間数(回数)

- ・ 3 時間 (2時間 × 1回 と 1時間 × 1回)

(6) 活動の内容

※会議の内容を明記します。

回	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
回	開催日時	時間数	場所	出席者数	議題	内容	出席者名	補助者名
1	平成 28 年 1 月 12 日(火) 10:00~12:00	2 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	4 人	(仮称)「認定 証」発行に 向けて	・学習者のメリットは何か。 ・地域でのメリットは何か。 ・どんな方法で発行するか。 ・評価法はどうするのか。	加藤エジソン 中村 裕 各務 眞弓 近藤 利恵	—
2	平成 28 2 月 25 日(木) 10:30~11:30	1 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	4 人	[前回の続き] (仮称)「認定 証」発行に 向けて	・日本語教室のメリットは何か。 ・教室コーディネーターで 文化庁カリキュラム案を 活用した教室運営づくりが 必要なのではないかと。	加藤エジソン 中村 裕 各務 眞弓 近藤 利恵	—

(7) 特徴的な活動風景(2~3回分)

※特に記録なし

(8) 目標の達成状況・成果

今年度当初、①文化庁事業運営事務局と行政 ②地域市民と地域在住外国人 ③日本語教育有識者 ④日本語講師 の4つの会議まで進める予定でいたが、①文化庁事業運営事務局と行政 しか実施できなかった。もともと、この(仮称)「認定証」を発案した理由は、日本語教室に通う学習者の継続率を上げるためだった。では、日本語教室のあり方はどうだろうか。と振り返ってみると、土曜日・日曜日・中上級者クラスに、横のつながりや「認定証」につなげていく一貫性はない。まず、日本語教室の目的や出口設定を整備してから、上記②以降の会議につなげていくことが重要だということになった。

また、この「認定証」を取得した学習者には、どんなメリットがあるのだろうか。例えば、就職する際に、「認定証」の有無が評価されるような仕組みにすれば、企業側にとっても、分かりやすく、いい人材を確保することができる。そのためには、今後の認定証会議には、企業にも出席してもらい、認定証の価値を知ってもらう必要がある。

(9) 今後の改善点について

日本で生まれ育ち、日本の学校に通った子どもたちが、就職に有利だからという理由だけで、(仮称)「認定証」を取得してもいいのだろうか。日本語レベルを表すだけの「認定証」ならば、発行できてしまう。しかし、本来の「日本語教室に通った学習歴の証」を示すものにするためには、そのような子どもたちも、日本語教室に通って、必要な日本語を学ぶというしかけが必要になる。地域で価値のある「認定証」にするために日本語教室で、地域で必要な日本語を学べる場として、提供しなければならない。そのためにも教室コーディネーターが、文化庁カリキュラム案を検証し、それに基づき、教室目標を設定し、教室運営に役立たせなければならない。来年度以降、「認定証」発行を見据えた教室作りをするために、まず各教室のコーディネーターが、本事業のコーディネーター会議の中で、土曜日・日曜日・中上級者との教室間に一貫性を持たせた目的を確認し合い、それから、授業内容を組み立てていくよう改善していきたい。

取組2: 初級者向け日本語教室

(1) 体制整備に向けた取組の目標

- ・地域の連携が不可欠な災害時の体制や情報提供のための“伝える・伝わる日本語”や、子育て中のママのための日本語、日本の四季折々の食文化を伝えるお料理教室、和服着付けや地域のイベントへの参加など文化体験型の日本語を織り交ぜながら、日本語学習を行う。
- ・日本語の習得によって、地域住民との交流、理解を深め、日本での生活をより充実したものにす。

(2) 取組内容

〔土曜日日本語教室〕

- ・外国人が日本語を学習したいと思った時に、学習したい内容にすぐ対応できるような教室を開催。

働いている人も来られるように土曜日の夜に設定。読む・書く・聞く・話すの四技能に対応する。

〔日曜日日本語教室〕

・身近なテーマに即した会話クラス。

《土・日共通して取り入れる活動や体験型日本語》

①防災ワークショップ及び防災まちあるき

多文化演劇ユニット MICHI による活動：可児市の防災及び水防訓練との連携訓練の定着。
避難所まで危険箇所はないか、分からない防災看板やポイントを歩きながら確認する。

②盆踊りの練習、夏祭りの開催

多文化共生育児サークル Earth Babies による活動：浴衣の着付け体験や、日本語学習者が
模擬店の店員になったり、Earth Babies のママや子どもたちと交流しながら、日本語を学ぶ。

③お料理教室

ミールの会による活動：四季折々の日本の料理を作りながら、それに関する日本語も学ぶ。

(3) 対象者

・日本語を学習したい主に初級レベルの外国人

(4)

・〔土曜日日本語教室〕

参加者の総数 749 人※延べ人数ではなく、参加した人数を記載

そのうちの日本語学習者数 552 人

【出身・国籍別内訳】

中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	インドネシア	タイ	ペルー	フィリピン	日本
14		184(8)	79	8	48		16	181	11(189)

※その他の国籍と人数：ボリビア 4 人、ドイツ 1 人、アメリカ 6 人

・〔日曜日日本語教室〕

参加者の総数 656 人※延べ人数ではなく、参加した人数を記載

そのうちの日本語学習者数 406 人

【出身・国籍別内訳】

中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	インドネシア	タイ	ペルー	フィリピン	日本
30		94(6)	59		35		8	166(16)	4(228)

※その他の国籍と人数：ドイツ 1 人、アメリカ 2 人、カメルーン 5 人、パキスタン 2 人

(5) 開催時間数(回数)

・〔土曜日日本語教室〕 49.5 時間 (1.5 時間 × 全 33 回)

・〔日曜日日本語教室〕 66 時間 (2 時間 × 全 33 回)

(6) 活動の内容

〔土曜日日本語教室〕

回	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成 27 年 4 月 18 日(土) 19:00~20:30	1.5 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	27 人	文法・ 会話・ 文字	文法:みんなの日本語 L22 会話:~してもいいですか。 文字:ひらがな・カタカナ・漢字	大澤まゆみ 佐分巧尚 高林喜四夫 田牧恵子 亀井晃 小串宏子	—
2	平成 27 年 5 月 9 日(土) 19:00~20:30	1.5 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	24 人	会話・ 文字	会話:~てあげる・もらう 自己紹介・お金、 物の名前 私は~です。~ですか。 文字:ひらがな・カタカナ	大澤まゆみ 佐分巧尚 高林喜四夫 田牧恵子 小串宏子	—
3	平成 27 年 5 月 16 日(土) 19:00~20:30	1.5 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	23 人	防災 (水害)	防災ワークショップ: ・災害発生時の行動(地震:頭 を隠す、洪水:高い所に逃げ る)をイス取りゲームをしながら 学び、同時に災害発生時に聞 こえてくる音を確認する。 ・避難所に行く時、家にあるも のから何を持っていけばいい か、日用品が描かれているア イテムカードから選び、必要な ものを考える。 ・最後にワークショップで初め て聞いた日本語を確認する。	[指導者] 山田久子 住吉エリオ [指導者] 大澤まゆみ 佐分巧尚 高林喜四夫 田牧恵子 小串宏子	近藤利恵
4	平成 27 年 5 月 23 日(土) 19:00~20:30	1.5 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	21 人	防災 (水害)	防災まちあるき: ・決められたルートに沿って 歩きながら、チェックポイント を探して歩く。 ・チェックポイントは災害時に 危険な場所や役に立つ物など を設定。実際に場所や物 を見ながら説明を聞く。	[指導者] 河野悟 山田久子 住吉エリオ [指導者] 大澤まゆみ 佐分巧尚 高林喜四夫	村知収 来田稔 南口弘 渡邊隆 朝日秀男 西川直見 永田俊司
5	平成 27 年 6 月 6 日(土) 19:00~20:30	1.5 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	34 人	会話・ 文字	会話:職場で役立つ日本語 趣味は~です。 文字:ひらがな・カタカナ	大澤まゆみ 佐分巧尚 高林喜四夫 田牧恵子	永田俊司
6	平成 27 年 6 月 13 日(土) 19:00~20:30	1.5 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	23 人	会話・ 文字	会話:職場で役立つ日本語 文字:ひらがな	大澤まゆみ 佐分巧尚 高林喜四夫 田牧恵子 小串宏子 村上ハネッサ	永田俊司
7	平成 27 年 6 月 20 日(土) 19:00~20:30	1.5 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	10 人	文化体験	お料理:お好み焼き・そうめん	[講師] 南谷弘子 西尾範子 都築典子 木原幸子 [指導者]	近藤利恵 永田俊司

							佐分巧尚 田牧恵子 小串宏子 林里美	
8	平成 27 年 6 月 27 日(土) 19:00~20:30	1.5 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	23 人	会話・ 文字	会話:職場で役立つ日本語 会話:~は~です。 否定・疑問・指示詞 文字:ひらがな・漢字	大澤まゆみ 佐分巧尚 高林喜四夫	永田俊司
9	平成 27 年 7 月 4 日(土) 19:00~20:30	1.5 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	25 人	会話・ 文字	会話:職場で役立つ日本語 会話:形容詞 文字:ひらがな	大澤まゆみ 佐分巧尚 高林喜四夫	永田俊司
10	平成 27 年 7 月 11 日(土) 19:00~20:30	1.5 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	26 人	読解・ 会話・ 文字	読み物 会話:て形を使って 文字:ひらがな	大澤まゆみ 佐分巧尚 田牧恵子 アレミア・ブライアン	永田俊司
11	平成 27 年 7 月 25 日(土) 19:00~20:30	1.5 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	16 人	読解・ 会話・ 文字	読み物 会話:ない形を使って 自己紹介、~を~します。 文字:ひらがな	大澤まゆみ 田牧恵子 小串宏子 林里美	永田俊司
12	平成 27 年 8 月 1 日(土) 19:00~20:30	1.5 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	8 人	文化体験	浴衣の着付け・盆踊りの練習	[盆踊り講師] 斎和子 [指導者] 大澤まゆみ 佐分巧尚 林里美	近藤利恵 永田俊司
13	平成 27 年 8 月 22 日(土) 19:00~20:30	1.5 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	19 人	読解・ 会話・ 文字	読み物 会話:形容詞 文字:ひらがな・カタカナ	大澤まゆみ 佐分巧尚 高林喜四夫 田牧恵子	—
14	平成 27 年 8 月 29 日(土) 19:00~20:30	1.5 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	17 人	防災 (地震)	防災まちあるき: (「まちあるき」を予定していた が、天候悪化のため「ワークシ ョップ」に変更) ・災害発生時の行動(地震:頭 を守る)をイス取りゲームをしな がら学び、同時に災害発生時 に聞こえてくる音を確認する。	[指導者] 山田久子 住吉エリオ [指導者] 佐分巧尚 高林喜四夫 小串宏子	村上ハネッサ 近藤利恵 村知収 渡邊隆 南口弘 板津博之 河合正人 西川直見 永田俊司
15	平成 27 年 9 月 5 日(土) 19:00~20:30	1.5 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	9 人	防災 (地震)	防災まちあるき: ・決められたルートに沿って 歩きながら、チェックポイント を探して歩く。 ・チェックポイントは災害時に 危険な場所や役に立つ物など を設定。実際に場所や物を見 ながら説明を聞く。 ・実際の避難所に行き、どんな 場所なのか確認する。	[指導者] 山田久子 住吉エリオ [指導者] 大澤まゆみ 佐分巧尚 高林喜四夫	村上ハネッサ 村知収 永田俊司
16	平成 27 年 9 月 12 日(土) 19:00~20:30	1.5 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	11 人	読解・ 会話・ 文字	読み物 会話:形容詞 文字:漢字	大澤まゆみ 佐分巧尚 高林喜四夫 田牧恵子	—
17	平成 27 年 9 月 26 日(土) 19:00~20:30	1.5 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	9 人	文化体験	お料理教室:炊き込みご飯・ お月見だんご・ウィンナー	[講師] 南谷弘子 西尾範子	永田俊司

							都築典子 木原幸子 〔指導者〕 佐分巧尚 田牧恵子 小串宏子 菰田さよ	
18	平成 27 年 10 月 17 日(土) 19:00~20:30	1.5 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	12 人	読解・ 会話・ 文字	読み物 会話:あいさつ 文字:漢字	大澤まゆみ 佐分巧尚 高林喜四夫 田牧恵子	永田俊司
19	平成 27 年 10 月 24 日(土) 19:00~20:30	1.5 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	13 人	読解・ 会話・ 文字	読み物 会話:て形~てください。 文字:ひらがな	大澤まゆみ 佐分巧尚 高林喜四夫 田牧恵子	永田俊司
20	平成 27 年 11 月 7 日(土) 19:00~20:30	1.5 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	22 人	読解・ 会話・ 文字	読み物 会話:て形を使って。疑問詞 文字:ひらがな	大澤まゆみ 佐分巧尚 高林喜四夫	永田俊司
21	平成 27 年 11 月 14 日(土) 19:00~20:30	1.5 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	12 人	会話・ 文字	会話:助詞。~がすぎです。 文字:ひらがな	佐分巧尚 高林喜四夫	永田俊司
22	平成 27 年 11 月 28 日(土) 19:00~20:30	1.5 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	7 人	会話・ 文字	会話 文字:ひらがな・漢字	佐分巧尚	永田俊司
23	平成 27 年 12 月 5 日(土) 19:00~20:30	1.5 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	12 人	会話・ 文字	会話 文字:ひらがな・漢字	大澤まゆみ 佐分巧尚 田牧恵子	永田俊司
24	平成 27 年 12 月 9 日(土) 19:00~20:30	1.5 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	7 人	会話・ 文字	会話 文字:ひらがな・カタナ・漢字	大澤まゆみ 高林喜四夫 田牧恵子	永田俊司
25	平成 28 年 1 月 16 日(土) 19:00~20:30	1.5 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	8 人	読解・ 文法	読み物 文法:~は~です。	大澤まゆみ 佐分巧尚 高林喜四夫	永田俊司
26	平成 28 年 1 月 23 日(土) 19:00~20:30	1.5 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	8 人	語彙・ 会話・ 文字	語彙 会話:~がほしいです。 文字:ひらがな	大澤まゆみ 佐分巧尚 田牧恵子	永田俊司
27	平成 28 年 1 月 30 日(土) 19:00~20:30	1.5 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	12 人	読解・ 会話・ 文字	読み物 会話:て形、~ています。 文字:ひらがな・カタナ	大澤まゆみ 佐分巧尚 高林喜四夫 田牧恵子	永田俊司
28	平成 28 年 2 月 13 日(土) 19:00~20:30	1.5 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	15 人	会話・ 文字	会話:動詞 文字:ひらがな・カタナ	佐分巧尚 田牧恵子	永田俊司
29	平成 28 年 2 月 20 日(土) 19:00~20:30	1.5 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	17 人	文化体験	お料理教室:ひな寿司	〔講師〕 南谷弘子 都築典子 木原幸子 〔指導者〕 大澤まゆみ 佐分巧尚 田牧恵子 菰田さよ	永田俊司

30	平成 28 年 2 月 27 日(土) 19:00~20:30	1.5 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	8 人	読解・ 会話・ 文字	読み物 会話:て形を使って。 文字:ひらがな	大澤まゆみ 佐分巧尚 高林喜四夫 田牧恵子	永田俊司
31	平成 28 年 3 月 5 日(土) 19:00~20:30	1.5 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	22 人	会話・ 文字	会話:自己紹介、指示詞、 体のパーツ、 日本の文化 文字:ひらがな・漢字	大澤まゆみ 佐分巧尚 高林喜四夫	永田俊司
32	平成 28 年 3 月 12 日(土) 19:00~20:30	1.5 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	14 人	会話・ 文字	会話 文字:ひらがな	大澤まゆみ 佐分巧尚 小串宏子	永田俊司
33	平成 28 年 3 月 19 日(土) 19:00~20:30	1.5 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	15 人	読解・ 会話・ 文字	読み物 会話 文字:ひらがな	大澤まゆみ 佐分巧尚 高林喜四夫 田牧恵子	永田俊司

〔日曜日日本語教室〕

回	開講日時	時間 数	場所	受講 者数	取組の テーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成 27 年 4 月 19 日(日) 13:30~15:30	2 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	23 人	会話・ 作文	買い物について	杉江俊明	石川英明 神谷明子 中西絢子 アレミア・ブライアン
2	平成 27 年 5 月 10 日(日) 13:30~15:30	2 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	19 人	防災 (水害)	防災ワークショップ: ・災害発生時の行動(地震:頭 を隠す、洪水:高い所に逃げ る)をイス取りゲームをしながら 学び、同時に災害発生時に聞 こえてくる音を確認する。 ・避難所に行く時、家にあるも のから何を持っていけばいい か、日用品が描かれているア イテムカードから選び、必要な ものを考える。 ・最後にワークショップで初め て聞いた日本語を確認する。	[指導者] 山田久子 住吉エリオ [指導者] 菰田さよ 田中安希子	石川英明 近藤利恵 渡辺美也子 アレミア・ブライアン
3	平成 27 年 5 月 17 日(日) 13:30~15:30	2 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	18 人	会話・ 作文	道を尋ねる・道案内	菰田さよ	石川英明 神谷明子 玉置啓二 横田裕子 渡辺美也子 永田俊二
4	平成 27 年 5 月 24 日(日) 13:30~15:30	2 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	12 人	防災 (水害)	防災まちあるき: ・決められたルートに沿って 歩きながら、チェックポイント を探して歩く。 ・チェックポイントは災害時に 危険な場所や役に立つ物など を設定。実際に場所や物を 見ながら説明を聞く。	[指導者] 河野悟 山田久子 住吉エリオ [指導者] 菰田さよ 小野木政子	石川英明 木村蕃 中島薫 村知収 来田稔 南口弘 渡邊隆 臼井尹保 田中薫 渡辺美也子 アレミア・ブライアン

5	平成 27 年 6 月 7 日(日) 13:30~15:30	2 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	30 人	会話・ 作文	病気、病院について	菰田さよ	玉置啓二 木村蕃 横田裕子 渡辺美也子 アレミア・ブライアン
6	平成 27 年 6 月 14 日(日) 13:30~15:30	2 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	18 人	会話・ 作文	家族について	菰田さよ	石川英明 神谷明子 渡辺美也子 アレミア・ブライアン
7	平成 27 年 6 月 21 日(日) 13:30~15:30	2 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	13 人	会話・ 作文	食べ物・材料の名前 自分の国の料理	菰田さよ	石川英明 玉置啓二 中島薫 渡辺美也子 アレミア・ブライアン
8	平成 27 年 6 月 28 日(日) 13:30~15:30	2 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	8 人	文化体験	お料理:お好み焼き・そうめん	[講師] 南谷弘子 西尾範子 都築典子 木原幸子 [指導者] 菰田さよ 長谷川すま子	石川英明 神谷明子 中島薫 横田裕子 渡辺美也子 アレミア・ブライアン
9	平成 27 年 7 月 5 日(日) 13:30~15:30	2 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	10 人	会話・ 作文	七夕について	菰田さよ	石川英明 神谷明子 玉置啓二 木村蕃 渡辺美也子 アレミア・ブライアン
10	平成 27 年 7 月 12 日(日) 13:30~15:30	2 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	14 人	漢字	にわとり式漢字教材を 使って、学習	[講師] 丹羽典子 [指導者] 菰田さよ	菰田さよ 近藤利恵 渡辺美也子 アレミア・ブライアン
11	平成 27 年 7 月 26 日(日) 13:30~15:30	2 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	9 人	文化体験	盆踊りの練習 うちわに漢字を書く	[盆踊り講師] 斎和子 [指導者] 菰田さよ 長谷川すま子	石川英明 中島薫 近藤利恵 渡辺美也子 アレミア・ブライアン
12	平成 27 年 8 月 2 日(日) 13:30~15:30	2 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	7 人	文化体験	夏祭り: 模擬店店員、盆踊り 浴衣着付け 12:30~13:30 浴衣終い方 15:30~16:00	[盆踊り講師] 斎和子 [浴衣着付け講師] 斎和子 中島薫 [指導者] 菰田さよ 田中安希子	石川英明 中島薫 斎和子 近藤利恵 寺澤佳子 井崎早苗 伊藤恵 高田綾子 渡辺美也子 アレミア・ブライアン
13	平成 27 年 8 月 23 日(日) 13:30~15:30	2 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	9 人	多読	[多読ライブラリ] 日本の本を読む	[講師] 栗野眞紀子 [指導者] 菰田さよ	石川英明 木村蕃 中島薫 中西絢子 近藤利恵 渡辺美也子

14	平成 27 年 8 月 30 日(日) 13:30~15:30	2 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	6 人	防災 (地震)	防災まちあるき: ・決められたルートに沿って 歩きながら、チェックポイントを探して歩く。 ・チェックポイントは災害時に危険な場所や役に立つ物などを設定。実際に場所や物を見ながら説明を聞く。 ・実際の避難所に行き、どんな場所なのか確認する。	[指導者] 山田久子 住吉エリオ [指導者] 菰田さよ 長谷川すま子	石川英明 古沢光子 横田裕子 杉江俊明 中西絢子 村上ハネッサ 村知収 渡邊隆 南口弘 千賀五十鈴 石田八十夫 臼井尹保 近藤利恵 渡辺美也子
15	平成 27 年 9 月 6 日(日) 13:30~15:30	2 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	10 人	防災 (通報訓練)	防災ワークショップ: ・119 番に電話した時の会話の流れを確認する。 ・いろいろなシチュエーション(火事・救急)で 119 番に電話をして状況を伝える練習をする。	[指導者] 山田久子 住吉エリオ [指導者] 菰田さよ 小野木政子	古沢光子 村上ハネッサ 渡辺美也子
16	平成 27 年 9 月 13 日(日) 13:30~15:30	2 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	23 人	文化体験	お料理教室:炊き込みご飯・お月見だんご・ウィンナー	[講師] 南谷弘子 西尾範子 都築典子 木原幸子 [指導者] 菰田さよ 田中安希子	神谷明子 中島薫 中西絢子 渡辺美也子 アレマニア・ブライアン
17	平成 27 年 9 月 27 日(日) 13:30~15:30	2 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	9 人	会話・ 作文	自分の名前について	菰田さよ	石川英明 神谷明子 玉置啓二 木村蕃 古沢光子 渡辺美也子 アレマニア・ブライアン
18	平成 27 年 10 月 18 日(日) 13:30~15:30	2 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	13 人	多読	多読の方法で日本の本を読む	菰田さよ	神谷明子 玉置啓二 中島薫 古沢光子 渡辺美也子
19	平成 27 年 10 月 25 日(日) 13:30~15:30	2 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	4 人	会話・ 作文	祭りについて	菰田さよ	木村蕃 古沢光子 杉江俊明 渡辺美也子
20	平成 27 年 11 月 8 日(日) 13:30~15:30	2 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	8 人	会話・ 作文	買い物について	菰田さよ	石川英明 中島薫 古沢光子 渡辺美也子 アレマニア・ブライアン
21	平成 27 年 11 月 15 日(日) 13:30~15:30	2 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	6 人	文化体験	カルタで日本語を増やそう	菰田さよ	神谷明子 中島薫 古沢光子 渡辺美也子 アレマニア・ブライアン

22	平成 27 年 11 月 29 日(日) 13:30~15:30	2 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	4 人	文化体験	年賀状を書く 百人一首に挑戦	菰田さよ 長谷川すま子	石川英明 神谷明子 (杉江俊明) (中西絢子) 渡辺美也子 アレマニア・ブライアン
23	平成 27 年 12 月 6 日(日) 13:30~15:30	2 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	9 人	防災	防災ワークショップ	菰田さよ 田中安希子	渡辺美也子 アレマニア・ブライアン
24	平成 27 年 12 月 20 日(日) 13:30~15:30	2 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	4 人	文化体験	お料理教室:鍋	[講師] 南谷弘子 西尾範子 都築典子 木原幸子 [指導者] 菰田さよ 小野木政子	玉置啓二 中島薫 古沢光子 渡辺美也子
25	平成 28 年 1 月 17 日(日) 13:30~15:30	2 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	6 人	文化体験	書き初め	菰田さよ	神谷明子 横田裕子 渡辺美也子
26	平成 28 年 1 月 24 日(日) 13:30~15:30	2 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	9 人	会話・ 作文	写真について	菰田さよ	石川英明 玉置啓二 中島薫 古沢光子 渡辺美也子
27	平成 28 年 1 月 31 日(日) 13:30~15:30	2 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	11 人	会話・ 作文	道が分からない時について	菰田さよ	石川英明 木村蕃 古沢光子 渡辺美也子
28	平成 28 年 2 月 14 日(日) 13:30~15:30	2 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	10 人	会話・ 作文	料理の仕方について	菰田さよ	石川英明 木村蕃 古沢光子 渡辺美也子
29	平成 28 年 2 月 21 日(日) 13:30~15:30	2 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	16 人	会話・ 作文	市役所まで出向き、実地体験 道中での日本語	菰田さよ	石川英明 神谷明子 玉置啓二 中島薫 古沢光子 渡辺美也子
30	平成 28 年 2 月 28 日(日) 13:30~15:30	2 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	14 人	文化体験	お料理教室:押し寿司 (ひな寿司)	[講師] 南谷弘子 都築典子 木原幸子 [指導者] 菰田さよ 長谷川すま子	石川英明 神谷明子 渡辺美也子
31	平成 28 年 3 月 6 日(日) 13:30~15:30	2 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	15 人	会話・ 作文	買い物について	菰田さよ	石川英明 神谷明子 木村蕃 古沢光子 (安居純) 渡辺美也子

32	平成 28 年 3 月 13 日(日) 13:30~15:30	2 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	14 人	会話・ 作文	休日の過ごし方について	菰田さよ	石川英明 神谷明子 古沢光子 (安居純) 渡辺美也子
33	平成 28 年 3 月 20 日(日) 13:30~15:30	2 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	11 人	会話・ 作文	～たい、～がほしい について	菰田さよ	玉置啓二 中島薫 横田裕子 渡辺美也子

(7) 特徴的な活動風景(2～3回分)

〔土曜日日本語教室〕

【第 8 回平成 27 年 6 月 20 日:お料理教室】

・お料理教室でお好み焼きを作った。「切る、入れる、混ぜる、焼く、ひっくり返す」など、たくさんの動詞を覚えたり、仕上げのソース、マヨネーズ、青のり、鰹節を他の学習者に「何がいいですか。」と聞きながら、お好み焼きを作ってあげることができた。お料理教室だからと言って、帰ろうとする学習者を引き留め、参加してもらった。最後には、帰らなくて良かった。たくさんの日本語を覚えることができた。そして、おいしい日本の料理を食べることができた。と感想を述べてくれた。

【第 13 回平成 27 年 8 月 1 日:盆踊りの練習】

・夏まつりを盛り上げるために、うちわを作製した。このうちわを持って、明日の夏祭りのために、何曲も汗が出るほど、盆踊りの練習をした。



〔お料理：お好み焼き〕



〔うちわ作り〕

取組事例①

【通常授業:会話】

・生活に即したテーマで会話をする。グループに分かれて、指導サポーターのもと会話を発展させる。最後は、作文にまとめる。



取組事例②

【第11回 平成27年7月12日:文字学習】

にわとり式漢字教材を使って、漢字を学習した。翻訳ペンや漢字カードから、いろんな語彙も習得した。

【第13回 平成27年8月2日:夏祭り】

前回の盆踊りの練習を生かして、本番に臨む。習字で「夏・涼・金魚・祭」などを書いたうちわを持って、夏祭りを楽しむと同時に、模擬店の店員役もし、様々な日本語を覚えたり、文化体験をした。

【第14回 平成27年8月23日:多読】

多言語多読ライブラリの書籍を多読の方法で、読み、日本語を学習する。最後は、本の内容についてみんなの前で発表した。



〔漢字学習〕



〔夏祭り〕



〔多読〕

(8) 目標の達成状況・成果

年間を通して、講師を招いた授業、防災や文化体験を取り入れることが出来た。日本語教室の中での活動であるため、講師は活動内容の提供をするだけでなく、日本語教室の指導者やサポーターは、講師が話した言葉をやさしい日本語におきかえて、覚えるべき日本語を学習者にサポートすることができた。関わるうちに、講師の方々も学習者に使う伝わる日本語や反応がいい(学習者受けする)内容の傾向をつかむことができ、今後の活動にも期待がもてそうだ。

学習者は、文字学習を計画的に学んだり、テーマに合わせながら、会話を楽しむことができた。

(9) 今後の改善点について

文化体験型の日本語として、防災やお料理教室、盆踊りの活動を取り入れたが、通常授業でそのテーマを取り上げることなく、単発の活動として終わってしまった。そのため、学習者には、途切れ途切れの内容になり、出席率の低迷につながった。今後は、計画的に前後2~3回は、そのテーマに触れるなど一連の流れを授業に取り入れ、学習者に期待感かつ定着、満足感を与えたい。

地域住民との交流がもてる活動をもっと考えなければならない。

取組3: 中上級者向け日本語教室

(1) 体制整備に向けた取組の目標

- ・仕事など、高度な日本語が理解できる。
- ・読解力をつける。自分の意見が書けたり、言えるようになる。
- ・作文コンテストにチャレンジする。

- ・地域社会の中で自立できて、コミュニティの中で、リーダーになっていけるような日本語能力をつける。

(2) 取組内容

〔仕事の日本語〕

- ・電話対応、伝え方、敬語、履歴書の書き方、自己アピールの仕方、保険のしくみをシリーズで学習する。

〔作文〕

- ・作文を書き、日本語作文コンテストに応募する。

〔本を読む〕

- ・説明文、物語文、古典、新聞 あらゆるジャンルの読み物を読み、自分の意見をまとめる。

(3) 対象者

- ・日本語中上級者レベルの外国人

(4) 参加者の総数 91 人※延べ人数ではなく、参加した人数を記載

そのうちの日本語学習者数 73 人

【出身・国籍別内訳】

中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	インドネシア	タイ	ペルー	フィリピン	日本
21	0	10	28	0	13	0	1	0	18

※その他の国籍と人数：

(5) 開催時間数(回数)

- ・〔仕事の日本語〕 12 時間 (2 時間 × 全 6 回)
- ・〔作文〕 2 時間 (2 時間 × 全 1 回)
- ・〔本を読む〕 12 時間 (2 時間 × 全 6 回)

(6) 活動の内容

〔仕事の日本語〕

※第 1 回目は、文化庁事業の謝金対象としていません。

回	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成 27 年 4 月 12 日(日) 13:30~15:30	2 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	9 人	電話対応 発信	・敬語の目的 ・敬語を使って話しましょう ・会話練習	田中安希子	—)
2	平成 27 年 4 月 19 日(日) 13:30~15:30	2 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	7 人	電話対応 受信	・丁寧に話しましょう ・個人的な電話 ・ビジネスの電話 ・ロールプレイ	田中安希子	小野木政子 長谷川すま子

						13:00～13:30 レベルチェック 〔チェック者〕 小野木政子 田中安希子 長谷川すま子		
3	平成 27 年 5 月 17 日(日) 13:30～15:30	2 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	7 人	伝え方 書く・話す	・伝言を頼む時 ・伝言を伝える時 ・伝言メモの書き方 ・ロールプレイ	長谷川すま子	—
4	平成 27 年 6 月 7 日(日) 13:30～15:30	2 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	10 人	保険のしくみ 漢字	・給与支給明細書の読み方 明細書の見方 ・社会保険労務士より 保険のしくみの話を聞く ・質疑応答	〔講師〕 中村悟 〔指導者〕 生田節子 小野木政子	—
5	平成 27 年 6 月 14 日(日) 13:30～15:30	2 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	9 人	敬語	・「お」と「ご」 ・お～ください。 ・お～します。ご～します。 ・特別な形	長谷川すま子	—
6	平成 27 年 6 月 21 日(日) 13:30～15:30	2 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	4 人	履歴書の書き方 自己 PR	・履歴書を書く	小野木政子	—
7	平成 27 年 7 月 5 日(日) 13:30～15:30	2 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	2 人	履歴書の書き方 自己 PR	・志望動機を書く ・アピールポイントを書く ・就職面接の質問の意図と 答え方 ・模擬面接	小野木政子	—

〔作文〕

回	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成 27 年 9 月 27 日(日) 13:30～15:30	2 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	3 人	作文	「自分の名前」について書く ・名前について話し合い ・原稿用紙の書き方 ・作文の書き方 …3 段落に分ける	長谷川すま子	—
2	平成 27 年 10 月 18 日(日) 13:30～15:30	2 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	0 人	作文	—	(小野木政子)	(田中安希子)

〔本を読む〕

回	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成 27 年 10 月 25 日(日) 13:30～15:30	2 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	5 人	本を読む	「オトタケ先生の 3 つの授業」 ・本を読む ・著者・著書の紹介 ・本文の読解 登場人物、本文、あらすじ	長谷川すま子	—
2	平成 27 年 11 月 8 日(日) 13:30～15:30	2 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	2 人	本を読む	「枕草子」 ・本を読む ・枕草子の説明 ・本文の読解 原文を講師が音読	田中安希子	—

						現代語訳を学習者が黙読 現代語訳を学習者が音読 ・意見を言う 学習者の「をかし」を聞く ・意見を書く 好きな季節について書く		
3	平成 27 年 11 月 15 日(日) 13:30~15:30	2 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	3 人	本を読む	「水のような人」 ・題名・どんな人が想像する ・本文を読む ・表現を考える	小野木政子	-
4	平成 28 年 1 月 17 日(日) 13:30~15:30	2 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	3 人	本を読む	「三年生でぜひ読みたい 10 分のお話し」 ・俳句について ・俳句を学ぼうを音読 ・現代の俳句を音読 ・句作	長谷川すま子	-
5	平成 28 年 1 月 24 日(日) 13:30~15:30	2 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	5 人	本を読む	「日本のごみ箱もっと増やし て」朝日新聞 ・投稿を読む ・自分の意見を言う ・自分の国ではどうか ・漢字	小野木政子	-
6	平成 28 年 1 月 31 日(日) 13:30~15:30	2 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	5 人	本を読む	「日本文化を読む」「吟味され た言葉」「天井裏」 ・学習者が自分で読む ・段落ごとに音読 ・意見を言う	田中安希子	-

(7) 特徴的な活動風景(2~3回分)

取組事例①

【第 4 回 平成 27 年 6 月 7 日】

社労士を講師にお招きし、給与明細の読み方、保険のしくみについて学習した。

【第 1 回 平成 27 年 9 月 27 日】

日本語作文コンテストに向け、作文を書き、テーマ「自分の名前」について発表し、優秀賞に輝いた。

〔漢字学習〕

〔夏祭り〕

〔多読〕



〔保険のしくみ〕



〔日本語作文コンテストでの発表〕

(8) 目標の達成状況・成果

中上級者レベルの学習者は、日常会話はでき、日本人とのコミュニケーションにあまり困らないので、自立はできているが、リーダーという立場に立っているかは分からない。学習者の中には、実習生が多く、3年日本にいただけで、その後、帰国するので、彼らは、リーダーになりたいとは思っていないようだ。授業内容がミスマッチなのか、日本語レベルが合っていなかったのか、想像していたより学習者は、“中上級”としての日本語レベルが低かったため、授業内容を「知る」「確認する」までは、達成できたが、「使える」までは達成できていない。そんな中でも、作文を書く授業で、日本語作文コンテストにチャレンジし、見事、成人の部で優秀賞を受賞することができた。作文を書くことによって、日本語で何をどのように表現すればいいのかを理解した。今後の励みにつながったのではないかと思う。

(9) 今後の改善点について

日曜日に日本語の勉強をしようと訪れた学習者を初級と中上級にレベル分けをしたが、初級クラスでは会話の学習をしているため、文字の読み書きができるようになって、中上級クラスに上がってくるわけではない。中上級クラスでは、ひらがな・カタカナの読み書きができることが必須条件であったため、クラス間の連携という意味では、程遠かった。会話はとても上手で、学習者本人も中上級クラスへ行きたいという意思があっても、文字の読み書きができないとレベルチェックで初級クラスを促される。連携がなされていないため、中上級クラスへ上がるチャンスがない。今後は、初級レベルの学習者がどのような形で中上級レベルまで引きあがり、中上級クラスへと引き継ぐか、教室間の連携を見直す必要がある。また、学習者が少なかった理由の一つとして、続けて出席する人があまりいなかったからではないか。継続して出席するように授業内容に一貫性をもたせる工夫が必要である。

取組4： 演劇ワークショップで伝える防災

(1) 体制整備に向けた取組の目標

- ・学習者の防災意識啓蒙を図る
- ・人材育成として、多文化演劇ユニット MICHI のメンバーが、ワークショップのバリエーションの検討とバージョンアップに取り組む。

(2) 取組内容

- ・防災ワークショップを通じて、防災意識を高めながら、緊急時に必要な情報伝達と日本語の習得。
- ・今後の広域連携を目指して、近隣地域での開催を実現し、定着へと向かっていく。

※〔土曜日日本語教室〕

5月16日 防災ワークショップ

5月23日 防災まちあるき

8月29日 防災ワークショップ

9月 5日 防災まちあるき

〔日曜日日本語教室〕

5月10日 防災ワークショップ

5月24日 防災まちあるき

- 8月30日 防災まちあるき
 9月6日 防災ワークショップ
 12月6日 防災ワークショップ については、取組2に掲載。

(3) 対象者

- ・日本語学習者および支援者

- (4) 参加者の総数 96 人※延べ人数ではなく、参加した人数を記載
 そのうちの日本語学習者数 75 人

【出身・国籍別内訳】

中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	インドネシア	タイ	ペルー	フィリピン	日本
7	0	45	19	0	0	0	0	5	18

※その他の国籍と人数：フランス1人、シンガポール1人

(5) 開催時間数(回数)

- ・ 3.5 時間 (2時間 × 1回 と 1.5時間 × 1回)

(6) 活動の内容

回	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成28年 2月22日(月) 9:00~11:00	2時間	美濃加茂市 イザキ・ニュートン 学校	40人	防災 (地震)	防災ワークショップ: ・伝言ゲームで「避難」「避難所」「地震」など確認する。 ・災害発生時の行動(地震:頭を隠す、洪水:高い所に逃げる)をイス取りゲームをしながら学び、同時に災害発生時に聞こえてくる音を確認する。 ・避難所に行く時、家にあるものから何を持っていけばいいか、日用品が描かれているアイテムカードから選び、必要なものを考える。	山田久子 住吉エリオ	長谷川あつ子
2	平成28年 2月28日(日) 10:00~11:30	1.5時間	関市 わかくさ・プラザ 総合体育館	48人	防災 (地震)	防災ワークショップ: ・災害発生時の行動(地震:頭を隠す、洪水:高い所に逃げる)をイス取りゲームをしながら学び、同時に災害発生時に聞こえてくる音を確認する。 ・避難所に行く時、家にあるものから何を持っていけばいいか、日用品が描かれているアイテムカードから選び、必要なものを考える。	山田久子 住吉エリオ 村上ハネッサ	中美保子 杉元賢人 村上ハネッサ

(7) 特徴的な活動風景(2~3回分)

取組事例①

〔取組 2: 土曜日、日曜日日本語教室より〕

【平成 27 年 5 月 10 日(日)・16 日(土) 防災ワークショップ同プログラムを実施】

〈水害バージョン〉

・イス取りゲームの要領で、会場中にバラバラに置いたイスを渡り歩きながら、ファシリテーターの「地震」の合図で、イスの下に頭を隠す。「洪水」の合図でイスの上に膝立ちになる(高いところに避難するという意味)など、災害時にどう行動すればいいのかを学んだ。「緊急地震速報」の音など災害時に流れる音についても確認をした。用語を説明する際には、用語を多言語化したものを使用した。洪水の際に使われる用語として「増水」「決壊」も加えた。

・グループに分かれて、日用品が描いてあるアイテムカード(92 枚)から避難所に持っていくものを選ぶ、避難所シミュレーションゲームを実施した。避難するシチュエーションを「洪水が起こり、アパートが浸水して避難する」とした。グループ毎にアイテムを発表し、どれも間違いではなく選ぶ人や状況によって必要なものが違うことを確認した。

・ワークショップ終了後アンケートを実施し、「今日おぼえた日本語は何ですか?」と聞くことでワークショップで確認した用語の更なる定着を目指した。



取組事例②

【平成 28 年 2 月 22 日: 防災ワークショップ】

・美濃加茂市にあるブラジル人学校「イザキ・ニュートン学校」にて、小学 1~4 年生の児童と先生を対象に実施。

・日本語の理解度が低いため、ポルトガル語の通訳を入れた。

・「地震」「洪水」「避難所」などの防災用語を、伝言ゲームの要領で人から聞き、人に伝えることで確認した。

・イス取りゲームの要領で、会場中にバラバラに置いたイスを渡り歩きながら、ファシリテーターの「地震」の合図で、イスの下に頭を隠すなど、災害時にどう行動すればいいのかを学んだ。

さらに「緊急地震速報」の音など災害時に流れる音についても確認をした。

・グループに分かれて、日用品が描いてあるアイテムカード(92 枚)から、大地震があった時に避難所に持っていくものを選ぶ、避難所シミュレーションゲームを実施した。グループ毎に選んだアイテムを発表し、どれも間違いではなく選ぶ人によって必要なものが違うことを確認した。

・ワークショップで学んだことを自分が先生になって家族に伝えることを宿題とした。



(8) 目標の達成状況・成果

- ・広域連携として、昨年に引き続き美濃加茂市のイザキ・ニュートン学校で実施し、新規開催では関市で実施することが出来た。
- ・アンケートには「今日おぼえた日本語」として、ワークショップ中に説明した言葉「洪水、地震、避難所、決壊、増水」だけではなく、それ以外にも「すばやい、ながれる、かわ」などワークショップ中に参加者自身が覚えた言葉が書いてあった。
- ・ワークショップの感想は概ね好評で「今日はたのしかったです。いろいろな事を勉強しました。たとえば地震がおきた時どうすればいいですか。それは勉強になりました。それに私たちはゲームをやりました。ゲームをしながら勉強するのは良かったです。」などの意見が多く、防災意識の向上につながった。
- ・ワークショップを開催する場所や時間、対象者によってプログラムを調整することで、バリエーションを増やすことが出来た。
- ・取組実績や参加者からの感想から取組目標については概ね達成できたと考えられる。

(9) 今後の改善点について

- ・防災用語を多言語化し、参加者の理解しやすいように工夫をしたが、どの国の人に参加するか当日まで分からないことも多く、すべての言語で対応することも難しいため、写真やイラストも使用して国籍や言語、年代に関係なく理解が深まるように工夫していく。
- ・開催場所の団体から、参加者の国籍や日本語の理解度、団体からの要望などのヒヤリングを丁寧に行い、常に最善のワークショップが実施できるよう工夫を続けていく。

取組5：日本語見本市

(1) 体制整備に向けた取組の目標

- ・取組の成果発表をする場や機会を作ることによって、指導者や指導補助者が、事業の主旨や授業に取り組む意義を理解する。
- ・日本語学習者が参加することによって、様々な取組があることを知ったり、取り組む指導者の思いを直接聞き、日本語を勉強する必要性を感じてもらう。
- ・他団体の教室と情報交換や情報収集をし、教室の見直しを図るなど、自分たちの取組の検証をし、教室にフィードバックする。

(2) 取組内容

- ・岐阜県内・他県・他市などの日本語教室が一堂に会して、教室の取組や活動の紹介を各ブースにて行う。取組の発表の時間を設け、その時間帯で本事業の事例報告を行う。会場では、学習者が成果発表をしたり、取組活動を再現して報告したりする。各教室のブースでは、模擬授業や活動体験、取組の中で習得した成果物を披露したり、文化交流も行う。

(3) 対象者

- ・日本語学習者、指導者、行政、企業、学校、地域住民、日本語教育関係者

(4) 参加者の総数 200 人※延べ人数ではなく、参加した人数を記載

そのうちの日本語学習者数 102 人

【出身・国籍別内訳】

中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	インドネシア	タイ	ペルー	フィリピン	日本
10	0	59	3	0	0	0	0	36	87

※その他の国籍と人数： イスラエル 2 人、オーストラリア 1 人、カナダ 1 人、カメルーン 1 人

(5) 開催時間数(回数)

- ・ 4.5 時間 [本事業取組成果報告及び事例報告： 1.5 時間 × 1 回]
[各ブース展示 取組紹介： 3 時間 × 1 回]

(6) 活動の内容

回	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成 28 年 2 月 7 日(日) 11:00~12:30	1.5 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	—	成果報告	・取組 1~4 及び空白地域 成果報告 ・広島市における 日本語教室の事例報告	米勢治子 各務眞弓 大澤まゆみ 菰田さよ 長谷川すま子 山田久子 近藤利恵 二口とみゑ	ATTOS・ KAIDE・KYLE
2	平成 28 年 2 月 7 日(日) 10:30~11:00 12:30~15:00	3 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	—	ブース展示	[HOPE プロジェクト] 広島市における 日本語教室の活動報告 今年度の取組の成果・課題 を発表する	二口とみゑ	—
3	平成 28 年 2 月 7 日(日) 10:30~11:00 12:30~15:00	3 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	—	ブース展示	[取組 2:土曜日日本語教室] 団体の活動報告 今年度の取組の成果・課題 を発表する	大澤まゆみ	—
4	平成 28 年 2 月 7 日(日) 10:30~11:00 12:30~15:00	3 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	—	ブース展示	[取組 2:日曜日日本語教室] 団体の活動報告 今年度の取組の成果・課題 を発表する	菰田さよ	神谷明子 古沢光子
5	平成 28 年 2 月 7 日(日) 10:30~11:00 12:30~15:00	3 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	—	ブース展示	[取組 3:中上級者向け 日本語教室] 団体の活動報告 今年度の取組の成果・課題 を発表する	長谷川すま子	小野木政子 田中安希子
6	平成 28 年 2 月 7 日(日) 10:30~11:00 12:30~15:00	3 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	—	ブース展示	[取組 4:演劇ワークショップ で伝える防災] 団体の活動報告 今年度の取組の成果・課題 を発表する	山田久子	住吉エリオ

7	平成 28 年 2 月 7 日(日) 10:30~11:00 12:30~15:00	3 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	—	ブース展示	〔空白地域:八百津町〕 団体の活動報告 今年度の取組の成果・課題 を発表する	リバーモア・ハニト	—
8	平成 28 年 2 月 7 日(日) 10:30~11:00 12:30~15:00	3 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	—	ブース展示	〔可児市教育委員会ばら教 室 KANI〕 団体の活動報告 今年度の取組の成果・課題 を発表する	(大口裕子)	—
9	平成 28 年 2 月 7 日(日) 10:30~11:00 12:30~15:00	3 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	—	ブース展示	〔可児ミッション〕 団体の活動報告 今年度の取組の成果・課題 を発表する	アビトン・フェルナント 赤坂唯	—
10	平成 28 年 2 月 7 日(日) 10:30~11:00 12:30~15:00	3 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	—	ブース展示	〔ミールの会〕 団体の活動報告 今年度の取組の成果・課題 を発表する	南谷弘子 西尾範子	—
11	平成 28 年 2 月 7 日(日) 10:30~11:00 12:30~15:00	3 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	—	ブース展示	〔にわたりの会〕 団体の活動報告 今年度の取組の成果・課題 を発表する	丹羽典子	丹羽智子
12	平成 28 年 2 月 7 日(日) 10:30~11:00 12:30~15:00	3 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	—	ブース展示	〔多言語多読〕 団体の活動報告 今年度の取組の成果・課題 を発表する	松田緑	白石ひろ子
13	平成 28 年 2 月 7 日(日) 10:30~11:00 12:30~15:00	3 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	—	ブース展示	〔岐阜県国際交流センター〕 団体の活動報告 今年度の取組の成果・課題 を発表する	(木村美穂)	—
14	平成 28 年 2 月 7 日(日) 10:30~11:00 12:30~15:00	3 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	—	ブース展示	〔美濃加茂国際交流協会〕 団体の活動報告 今年度の取組の成果・課題 を発表する	加藤矩弘	—
15	平成 28 年 2 月 7 日(日) 10:30~11:00 12:30~15:00	3 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	—	ブース展示	〔東海日本語ネットワーク〕 団体の活動報告 今年度の取組の成果・課題 を発表する	米勢治子	酒井美賀
16	平成 28 年 2 月 7 日(日) 10:30~11:00 12:30~15:00	3 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	—	ブース展示	〔Viva おかざき!!〕 団体の活動報告 今年度の取組の成果・課題 を発表する	稲吉歩美	長尾晴香
17	平成 28 年 2 月 7 日(日) 10:30~11:00 12:30~15:00	3 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	—	ブース展示	〔可児市国際交流協会 高校進学支援:さつき・かが やき教室〕 団体の活動報告 今年度の取組の成果・課題 を発表する	(大澤まゆみ)	—
18	平成 28 年 2 月 7 日(日) 10:30~11:00 12:30~15:00	3 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	—	ブース展示	〔可児市国際交流協会 小中学校就学支援: ゆめ教室〕 団体の活動報告 今年度の取組の成果・課題 を発表する	阿久津エウザ	—
19	平成 28 年 2 月 7 日(日) 10:30~11:00	3 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	—	ブース展示	〔可児市国際交流協会 就学前事前準備指導: ひよこ教室〕	村上ハネッサ	フェルナンデス・ エリザ キギス・ミチコ

	12:30~15:00					団体の活動報告 今年度の取組の成果・課題 を発表する		キハラ・イザベラ
20	平成 28 年 2 月 7 日(日) 10:30~11:00 12:30~15:00	3 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	—	ブース展示	〔可児市国際交流協会 小中学校に通う補習支援: きぼう教室〕 団体の活動報告 今年度の取組の成果・課題 を発表する	河村佳予子	—
21	平成 28 年 2 月 7 日(日) 10:30~11:00 12:30~15:00	3 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	—	ブース展示	〔可児市国際交流協会 子どもの日本語教室: つばめ教室〕 団体の活動報告 今年度の取組の成果・課題 を発表する	林里美	—
22	平成 28 年 2 月 7 日(日) 10:30~11:00 12:30~15:00	3 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	—	ブース展示	〔可児市国際交流協会 子どもの語学教室: サシペレレ〕 団体の活動報告 今年度の取組の成果・課題 を発表する	セヤマ・テレジア	—
23	平成 28 年 2 月 7 日(日) 10:30~11:00 12:30~15:00	3 時間	可児市多文化 共生センター フレビア	—	ブース展示	〔可児市国際交流協会 グローバル人材: ポルトガル語・英語〕 団体の活動報告 今年度の取組の成果・課題 を発表する	坂江・レアンドロ・ ユウキ	—

(7) 特徴的な活動風景(2~3回分)

取組事例①

【平成 28 年 2 月 7 日:日本語見本市】

広島市 HOPE プロジェクト代表 ニロとみゑ先生による事例報告。広島での取組やたくさんの教材の
展示など、他教室との情報交換の中で、とても参考になったというご意見が多く寄せられた。



〔ニロとみゑ先生による事例報告〕



〔出展ブースの様子〕

(8) 目標の達成状況・成果

- ・今年度は、就学前から高校進学支援、成人の日本語教室を経て、地域社会へ「つなぐ」をテーマに
当協会と同じような支援をしている他団体に出展していただいた。教室に関わる指導者や

指導サポーターは、本取組に向けて、成果を見出し、発表へとつなぐことができた。

- ・本事業の取組の成果発表では、今年度の取組を振り返るいい機会となり、それぞれ、成果と課題を捉えることができ、来年度に向けて改善の意気込みが感じられた。
- ・日本人より外国人の来場者が多かったことに驚いた。本事業の取組の関心の高さが伺えた。
- ・昨年度の反省を踏まえ、今年度は、学習者に受付、模擬店、パフォーマンスなど、会場を盛り上げてもらった。学習者もほどよい緊張感が生まれ、日本語を覚えようとする姿が見られ、さらに効果が得られた。

[参加者アンケート]

- ・可児市以外の団体の方々と交流ができて、良かった。
- ・ずっと気になっていた団体の方とお話できて、参考になって良かった。自分の教室に活かしたい。
- ・たくさんのお話が聞けて、ためになりました。
- ・ブース対応と本事業の取組、広島市二口先生の発表の時間が区分されていたため、話を落ち着いて聞くことができ、ブース対応も集中できて良かった。
- ・広島市二口先生の「お話コンサート」のお話を聞いたのは、初めてで、興味深いイベントだと思った。
- ・中上級者向け日本語教室のブース展示では、俳句作りや読解の力をつけるための教室の取組が、教室の教材と学習者の作品が展示されており、指導者の説明と合わせて分かりやすかった。
- ・いろいろな団体の取組が分かり、良かった。学習者や子どもたちが自分たちで、動けていたのが良かった。
- ・広島市二口先生と話ができ、子どもの教材を教えていただき良かったです。母語を大切にする取組がとてもよいと思います。
- ・多国籍の食べ物があって、良かったし、学習者のパフォーマンスも良かった。
- ・学習者、子ども自身が説明、ゲームを担当していて、良いと思った。
- ・米勢先生の総評が良かった。「生活に活かせる」の言葉に今後の活動をどのように進めていったらいいのか、考えさせられた。
- ・一つの部屋に展示と交流スペースがまとまっているのが、良かった。
- ・次回は、知り合いにもっと紹介して参加したいと思います。
- ・来場した人たちが、とても楽しそうで、気持ちがあたたかくなった。各ブースが充実していて、参考になった。ブースのスタッフも生き生きとしていて、エネルギーをいただけた。
- ・広島市二口先生のお話コンサートの話が参考になった。日本語を教えるというだけでなく、母語を尊重した活動に興味を持った。
- ・日本語教室の取組がよく分かって、良かったです。
- ・ゆめ教室やつばめ教室などのブースで、外国人の子どもたちの生活や学習の様子が分かって、参考になった。
- ・多くの団体の取組を知るいい機会でした。たくさんブース担当の学習者が来場者に積極的に声をかけていたのが、多文化担当として、とても励みになりました。
- ・近くの本屋では手に入らないため、凡人社の出店は、とても良かった。
- ・このような取組は良いことだと思う。岡崎市にも同じような日本語教室があるのは、初めて知りました。これからの発展に期待しています。

□日本語見本市の様子が、岐阜放送局「ぎふチャン」にて放映された。

(9) 今後の改善点について

- ・日本語教室に関わる指導者やサポーターが全員参加していない。展示ポスターなど、教室によっては、教室リーダーが一人で作ったり、準備していた。本事業の取組を周知させているつもりだが、まだまだ浸透しておらず、関心の低さが垣間見えた。日本語教室の目的や必要性、あり方など、根本的なことから、話し合い、分かり合い、運営していくことが求められる。関わるみんなで同じ方向を向いて歩めるように今一度、確認していきたい。

空白地域： 八百津町日本語教室

(1) 体制整備に向けた取組の目標

- ・空白地域である八百津町で、日本語教室を実施する。そのためには、八百津町役場、八百津国際交流協会の協力が不可欠である。関係者に働きかけ、日本語教室の必要性を伝えていく。

(2) 取組内容

- ・お料理教室の開催。キャラ弁ではなく、毎日負担のない、お弁当が作れるように、日本特有の彩よく栄養を考えたお弁当を作る。お料理教室の後、座談会を開き、「どんな日本語教室があったら嬉しいか」「どんなことで困っているか」など、学習者の意見を聞きだす。

(3) 対象者

- ・八百津在住の外国人、お弁当を習いたい外国人

(4) 参加者の総数 24 人※延べ人数ではなく、参加した人数を記載

そのうちの日本語学習者数 15 人

【出身・国籍別内訳】

中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	インドネシア	タイ	ペルー	フィリピン	日本
0	0	8	0	0	0	0	0	5	8

※その他の国籍と人数： イスラエル 2 人、パキスタン 1 人

(5) 開催時間数(回数)

- ・ 6 時間 [お料理教室： 4.5 時間 × 1 回]
[座談会： 1.5 時間 × 1 回]

(6) 活動の内容

回	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
---	------	-----	----	------	--------	------	------	------

1	平成 28 年 3 月 13 日(日) 9:00～13:30	4.5 時間	八百津町 中央公民館	15 人	文化体験	お料理教室:お弁当を作る	南谷弘子 都築典子 木原幸子 南谷ちかこ	近藤利恵 村上パネッサ 早川文雄
2	平成 28 年 3 月 13 日(日) 13:30～15:00	1.5 時間	八百津町 中央公民館	16 人	座談会	八百津町在住外国人に どんな日本語教室があったら 嬉しいか、何に困っているか などをヒアリング。 可児市在住外国人と意見 交換。	各務眞弓 近藤利恵 リバーモア・ハント (渡辺仁美)	村上パネッサ

(7) 特徴的な活動風景(2～3回分)

取組事例①

【平成 28 年 3 月 13 日】

子どもたちも参加できるようなスタイルをとり、楽しくお料理教室を行った。お料理教室の後は、八百津町在住外国人と可児市在住外国人、そして支援者で座談会を行い、どんな日本語が学習したいのか、生活している中で、困っていることは何かなど意見交換をした。



(8) 目標の達成状況・成果

- ・八百津町役場に本事業の取組の主旨を伝え、ご理解いただいてから、お料理教室を開催することができた。事前に八百津在住外国人にニーズ調査及び分析をしないまま、まずは、学習者が集まりやすいお料理教室を開催して、集まったところで、実際に学習者の現状をヒアリング、意見交換をした。
- ・実施日間近になっても、申込者が少なかったため、可児市在住の外国人にも参加してもらった。八百津町在住のスタッフがいるテーブルには、八百津町在住外国人と一緒にできるように配慮した。座談会では、可児市在住の外国人には、可児市での支援などを話してもらい、八百津在住の外国人にどんな日本語教室が効果的かヒントを与えた。
- ・お料理教室では、赤ウインナーは体に悪いのでは？という質問から、「無添加調理」というキーワードを覚える場面もあった。学習者は、料理はできるのだが、どうしたら、より日本人らしいお弁当に見えるか、料理したおかずの「詰め方」に非常に関心が高かった。学習者の中にイスラム教徒がいたが、調味料やウインナーのパッケージの裏に書いてある「豚・豚肉・ポーク・ポークエキス」という単語を一生懸命記録

しているのが、印象的だった。このお料理教室では、講師が、宗教にも配慮したメニューで、用意してくれたため、混乱を防げた。

〔参加者アンケート〕

- ・今日はとても楽しかったです。初めて、卵焼きがきれいに、おいしく出来ました。みんなで料理するとおいしく出来て、楽しく食べられていいです。
- ・今日の座談会は、嬉しかったです。いろいろ話があったので、話せて気持ちがいいです。いつも一人だから、またいつか話して、勉強もしたいです。
- ・今度は他の料理を作りたいです。そうしたら、家でも日本料理を毎日いっぱい作れます。いろいろなお弁当も作りたい。またみんなで一緒に作りたいので、よろしくお願いします。
- ・今日の座談会は、いろいろな国の人が集まって、お互いに考えていることが分かるので、とても良かったです。
- ・パキスタンや他の国のお料理教室で、文化交流がしたい。
- ・座談会は、とてもいい勉強になりました。他の外国人がどんなことで困っているのかが知れて良かった。
- ・私は可児市に住んでいて、可児市にはいろんな支援があつて、幸せだなあと実感した。

〔座談会のまとめ〕

- ・今日は、3家族の八百津の人が来てくれた。
- ・長く住んでいる人より、新しく来た人が今困っている。→八百津に窓口がないため、可児市(フレビア：可児市国際交流協会)が、窓口になってしまっている。
- ・それぞれ住んでいる人は、他に(自分以外に)外国人がいないと思っている。
- ・町民ですら、外国人のことを認識していない。
- ・住みついた人には、町からの支援が必要。
- ・日本語の勉強がしたい→読み・書き
- ・学校、保育園のおたより、書類が読めない。→家族にいつも頼めない。
- ・保険、年金の書類が分からない。→誰に聞けばいいのか。
- ・可児市(フレビア：可児市国際交流協会)では、何でもあるし、いろいろな活動があるため、良い。
→可児市では、通訳もあるため、勉強するチャンスをもしかしたら、減らしているかもしれない
→八百津はまだまだこれから。
- ・可児市(フレビア：可児市国際交流協会)では、一人一人を大切に、一人一人のニーズに応じている。→役所では出来ないところ。
- ・テキストで覚えるより、実践した方が早く覚えていく。
- ・八百津での日本語教室はいつ開催がいいか。→日曜日がいい。
- ・八百津での日本語教室は、いる？いない？→いないことはない。
- ・日本語教室をやることで、集まってもらえると嬉しい。→「集まる場所づくり」
- ・日本人もお互いサポートをしていく。
- ・外国人だけでなく、日本人も勉強することが大事。(家族、近所、会社 etc…)日本人が受け入れようとしてくれなければ、それ以上は無理、押し付けることは出来ない。

(9) 今後の改善点について

- ・日本語見本市や人が集まる八百津町のイベントにもチラシを配布したが、なかなか申込みがなかった。直接本人に行き渡るよう、八百津町教育委員会の協力のもと、学校に直接チラシを配布することができたが、それでも、チラシを見て来る人はいなかった。今回の座談会で、相談内容と連絡先をいただいたので、ピンポイントに動向をおさえていきたい。それから、他の在住外国人に波及していくことを狙う。

8. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

- ・在住外国人もかつて中南米の日系人から、ここ数年は東南アジア系の日系人、実習生、結婚等での来日など、その様子は変遷し、多様化してきている。この人たちが、日本で生活する上で必要とする日本語が学べるように、初級から中級までレベルに応じた日本語教室を展開する。日本語教室で学習したことが活用でき、また評価してもらえるような仕組みを作り、学習意欲の向上につなげる。その評価は(仮称)「認定証」によって表わされるようにする。認定基準を設けて検定し、その結果を共有することによって、本人の日本語学習達成の目標ができ、人材育成という観点からも、自発的な行動が取れるようにする。日本で生活するにあたって、何が大切かという意識を在住外国人も日本語指導者も意識しながら、学習を行えるようにする。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

- ・従来、他事業で土曜日クラス、日曜日クラスを運営しており、今年度から本事業で運営することになった。その理由は、従来「外国人のための」日本語教室ではあったが、特に目標を掲げているわけではなく、教室に通った学習者がどんな目的で、学習し終わった後、どんな姿になっているか、どうあってほしいのかなど、本事業の取組にしたことで、教室に関わっている人たちが、考えるきっかけとなった。しかし、本事業で取組1の(仮称)「認定証」発行へ向けた取組が、まだ協会内で浸透しておらず、そこに向け、日本語教室でどう取り組んでいけばいいのかまでは、まだ見据えることが出来なかった。土曜日クラスと日曜日クラスの連携、さらには、中上級者クラスへ結びつけ、順に学んだ学習者が(仮称)「認定証」を取得し、地域社会で活躍するというイメージを抱くためには、各教室の担当者が、取組1の会議に参加し議論を重ね、取組2の教室運営にフィードバックしていく必要がある。

(3) 地域における事業の効果、成果

- ・いつ、誰が来ても、受け入れられる日本語教室を定常的に開講することを目指したが、「生活するために」必要だと思い準備した日本語教室の中で、防災やお料理教室など文化体験型の活動は、「日本語の勉強ではない」という認識が指導者にも学習者にもあった。「今日は、防災か・・・」「今日は、お料理教室か・・・」と言って、わざわざ会場まで出向いたのに、帰ってしまうことが多々見受けられた。それを引き留め、充分、日本語の勉強になることを説得しない日本語教室関係者や、次週、通常授業だと告げる際に、「次回は日本語の勉強です。」という表現をしてしまっただけでは、学習者がテーマを選んでくることを助長している。ここで日本語を学習した人が、一年後にどうなっているのか、どうあってほしいのかを、教室関係者一人一人が考え、教室作りをしなければならない。そのためには、学習者が目標を達した時に、地域社会でどう活躍できるのかを(仮称)「認定証」会議で

検討するわけだが、今年度は、まだまだ、日本語教室での取組の目標の見直しが必要だという気付きだけに留まり、来年度以降、各教室リーダーと日本語教室の取組、教室間の連携を話し合い、組み立てていく予定である。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果

- ・地域在住の方に講師としてお越しいただき、文化体験型学習を実施した。講師の方々も学習者の意向や、反応を今後の内容に反映させていただきたいと思う。また、来年度は、今年度を参考に各教室の指導者や指導サポーターが、必要だと思う地域関係者と連携構築を図れるような内容を授業に取り入れ、一年後、振り返った時、その連携はどうであったか、自ら検証してもらいたい。日本語見本市では、教室リーダーだけが対応するのではなく、教室関係者が一丸となって、自分の教室を紹介できるようなスタイルが取れるよう、目指したい。その日本語見本市は、今年度も様々な分野の方にお越しいただき、評価をいただいた。第一前提に本事業があること。そこから、日本語体制整備がされていくことを日本語見本市でもっとアピールしなければならない。

(5) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

- ・日本語教室の開催や活動のお知らせは、毎月、多言語情報誌や協会のホームページ、FaceBookメルマガなどで、発信した。特別にチラシを作っても、それによる効果はあまり見られない。今後は、開催のお知らせだけでなく、何に役に立つなどの効果や実施後の報告を具体的に通信で発信し、コンスタントに取組を紹介していく必要がある。

(6) 改善点、今後の課題について

- ・(仮称)「認定証」を発行したい大きな理由として、ここの日本語教室が学習者にとって、地域で意味のあるものとしたい。日本語教室で継続して学習すること、学習するとこんなメリットがある。だから、頑張れる。という仕組みを作るためには、日本語教室の内容や各教室間の連携を見直すことだった。まず、中核コーディネーターと各教室リーダーで、目指す方向を統一すること、そして、教室間に一貫性を持たせることが必至になる。来年度以降、(仮称)「認定証」発行を企画した意義を再確認し、教室運営を検討していきたい。従来、中上級者クラスは、平日の午後や土曜日、日曜日の午前など、あらゆる時間帯に設定してきたが、今年度、日曜日の午後に開設することにした。もともと、協会の日本語教室は、日曜日の午後にあるということが定着されているため、出席数は前年ほど悪くなかったが、通常は、初級クラスがあるため、そのクラスには、中上級レベルの学習者も来ることから、レベル分けをしてお互いのクラスがやりやすくなったであろうと思っていた矢先、学習者の取り合いが生じてしまい、クラス間の「連携」とは、かけ離れた雰囲気になってしまった。(仮称)「認定証」発行を目指すことによって、教室目標が見えやすくなるのではないかと期待するが、「認定証」とは何か。ということ、本事業を通して、協会に関わる人たちが周知されなければ、うまく機能しないだろう。意識の統一のために話し合いを重ねていきたい。

(7) その他参考資料